

科目名	英語教育学概論			ナンバリング	EDU231	授業形態	講義
対象学年	2年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	青木茂治	担当教員					

授業の概要	英語教育の世界ではさまざまな変革がみられる。英語教育に関わる問題は多角的に検討される必要がある。この授業では、主として英語教育学における理論的な側面を扱う。それにより、学生が日本の英語教育の現状を整理し、自ら英語教育の問題点を考察するための基礎的な知識を習得することを目的とする。授業では、日本の英語教育の変遷、英語教育課程、言語習得、英語教授法、学習者論、教師論など、幅広い内容を扱う。また、実際の英語教育の現場の状況も示しつつ、理論と実践の結びつきについても検討する。学生が将来、英語教育に携わろうとする意欲の涵養にも努めていく。
到達目標	1. 日本における英語教育の特徴や問題点を整理し、要点をつかみながら説明することができる。 2. 英語教育を理論的な側面から説明することができる。 3. 英語教育における理論と実践の結びつきをとらえながら、自らが描く教師像について具体的に説明することができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	特別な予備知識は必要としないが、意欲的な態度で授業に参加することを強く求める。授業の内容をあとから再現できるように、授業の内容をノートに記録・整理することが重要である。特に授業で示されたキーワードについては、振り返りをしつつ、自分の言葉で説明できるようにしておくことが求められる。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	○ 2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○ 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①日本における英語教育の特徴や問題点を説明することができる。 ②英語教育のいくつかの理論について説明することができる。 ③自らが描く理想の教師像について説明することができる。	①日本における英語教育の問題点を指摘し、改善案を提案することができる。 ②英語教育におけるさまざまな理論を実際の教育現場でどのように活用するかについて明確に示すことができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		50%
宿題・授業外レポート	○	○			○		50%
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	1. 小テストの結果を受けて、授業で振り返りをする。 2. レポートにはコメントを付したうえで返却する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	・導入(授業の進め方や評価方法について提示する。) ・意欲づけ(①英語の言語的理解 →②英語教育・教師像の在り方検討)	
	第2回	日本の英語教育の歴史的経緯 英語の国際化	日本の英語教育の歴史的経緯を整理する。 国際化時代の英語の役割を検討する。	
	第3回	英語教育と英語教育学 第二言語習得論	日本における英語教育の位置付けや重要性について考える。 英語教育学とはどのような学問なのかを考える。 言語習得理論を概観する。	
	第4回	日本の英語教育と世界(その1)	英語の国際化と日本の英語教育に関して概観する。	
	第5回	日本の英語教育と世界(その2)	ヨーロッパ諸国の英語教育, アジア諸国の英語教育について扱う。 世界の学力観や言語教育観を概観する。	
	第6回	英語教育課程(その1)	カリキュラムや学習指導要領についての基本的事項を扱う。	
	第7回	英語教育課程(その2)	英語教育の指導理念などについての解説。 英語教育における指導理念について検討する。	
	第8回	英語教授法(その1)	過去の代表的な教授法を概観し, 利点や問題点を追及する。	
	第9回	英語教授法(その2)	過去の代表的な教授法を概観し, 利点や問題点を追及する。	
	第10回	学習者論(その1)	学習に影響を及ぼすさまざまな学習者要因を取り上げる。	
	第11回	学習者論(その2)	学習に影響を及ぼすさまざまな学習者要因を取り上げる。	
	第12回	教師論(その1)	英語教師として学習者に与える様々な影響の要因を考える。	
	第13回	教師論(その2)	英語教師として身につけておくべき資質・能力とその枠組みについて概観する。	
	第14回	評価論	評価の基本概念, テストの種類, 評価の観点・方法について考える。	
	第15回	振り返り・まとめ	第1回～第14回までの授業内容の総括と補足。 授業外レポートの返却。	
		試験	試験は実施せず, 小テスト(授業内)とレポート(授業外)を課す。	
授業の進め方	原則的には講義と質疑応答によるものとする。授業内に小テストを行うこともある。			
授業外学習の指示	講義ノートを復習する。必要に応じて, 図書館等で関連の文献にあたり, 自らの理解を深める。  (授業外学習時間: 毎週 90 分)			

教科書	特に指定せず, 必要に応じて資料を配付する。(配付する資料は確実に保管すること。)
参考書	適宜指示する。
参考URLなど	適宜指示する。
その他	授業に出席することは極めて重要である。